

森林総合研究所プレスリリース

ホームページに掲載したプレスリリースをご紹介します。詳しくお知りになりたい方は、下記案内より当所ホームページをご覧ください。

●2019年10月28日掲載

外来哺乳類を駆除して、鳥の数を増やす——世界自然遺産小笠原諸島の自然再生事業の成功と課題

森林総合研究所は、小笠原自然文化研究所と共同で、小笠原諸島（小笠原列島の国有林等における外来種のノヤギを駆除することで、クロアシホウドリ、オナガミズナギドリ、カツオドリ）の個体数が急速に回復することを明らかにしました。

ノヤギが踏み荒らすことなどによって、海鳥の繁殖を攪乱していたと考えられます。ノヤギの駆除が、海鳥の個体数の回復に功を奏した例は、世界でも初めてのことで、海鳥は海から陸に栄養を運んだり、ほかの島から種子を運んだり、生態系内でさまざまな機能を果たします。外来哺乳類の駆除で増加した海鳥によって、傷ついた生態系の修復が加



オガサワラカワラヒワ

速することを期待しています。

また、絶滅危惧種のオガサワラワラヒワという鳥を脅かしているのは、外来哺乳類クマネズミによる捕食である可能性も示しました。現在、オガサワラワラヒワは、母島属島と南硫黄島にしか生き残っていません。また、クマネズミのいない母島属島にはドブネズミが生息しており、ここでも個体数が減少しています。この鳥を絶滅させないためには、ネズミの駆除が不可欠です。

●2019年12月3日掲載

生物多様性保全と温暖化対策は両立できる——生物多様性の損失は気候安定化の努力で抑えられる

森林総合研究所は、立命館大学、京都大学、国立環境研究所、東京農業大学と共同で、パリ協定が目指す長期気候目標（2℃目標）達成のための温暖化対策が、森林生態系を含む世界の生物多様性に与える影響について評価しました。その結果、2℃目標の達成により生物多様性の損失の程度が抑えられることが予測されました。

温暖化を放置しておく、気温上昇により生物の生息環境が悪化する恐れがあります。2℃目標達成のためには、新規植林やバイオ燃料作物の栽培といった土地変化を伴う温暖化対策が必要ですが、同時に生物のすみかも奪い、多様性を低下させてしまう可能性があります。本研究では、2℃目標達成のための温暖化対策「あり」と「なし」それぞれの場合における将来の生物多様性損失の度

合を、複数の統計学的な推定手法を使って、世界規模で比較しました。その結果、対策「あり」で2℃目標を達成した方が「なし」のままで温暖化が進行してしまった場合と比べて、生物多様性の損失の程度を抑えられることが、世界で初めて示されました。

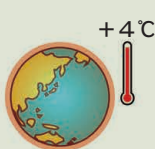
温暖化対策「あり」



気温上昇小



温暖化対策「なし」



気温上昇大



生息地の減少要因 X 気候変動 X 土地変化

森林総合研究所研究報告

第18巻4号（通巻452号）

▼論文

北海道における地がきダケカンバ更新地の樹高成長と表層土壌理化学の関係

伊藤 江利子、橋本 徹、相澤 州平、古家 直行、石橋 聡

トドマツ人工林伐採後の地がき施設によるカンバ等の更新への効果

伊東 宏樹、中西 敦史、津山 幾太郎、関剛、倉本 恵生、飯田 滋生、石橋 聡

日本の山菜10種、11部位のセシウム137の食品加工係数と食品加工残存係数・長期保存のためのレシピが放射性セシウム量を最も減らした清野 嘉之、赤間 亮夫

中部地方で発生したスズタケ(*Sasamophora borealis*)—一斉結実に対する野ネズミ個体群の反応(英文) 島田 卓哉、星野 大介、岡本 透、齋藤 智之、野口 和幸、酒井 武

▼短報

カラマツコンテナ苗における床替苗根腐病 升屋 勇人、安藤 裕萌、八木 橋勉、齋藤 智之、野口 麻穂子

▼研究資料

森林総合研究所十町試験地における冬の気象および雪質の調査資料(9) (2014/15年〜2018/19年5冬期) 竹内 由香里、勝島 隆史、遠藤 八十一



P.3, 8



P.3,8,14,16



P.3,14,16



P.18,19



P.18,19,20



◀持続可能な開発目標 (SDGs)

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続的な開発目標 (SDGs) の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。

プレスリリース等の最新情報はこちらから→

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/topics/index.html>

お問い合わせ

森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係
TEL 029-829-8372
Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

